

滋賀県衛生科学センターだより

No. 36

2026年 9月

編集発行 滋賀県衛生科学センター

〒520-0834 大津市御殿浜 13-45

Tel 077-537-3050 Fax 077-537-5548

e-mail: eh45@pref.shiga.lg.jp

HP: <https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/>

「夏休み親子教室」を開催しました

当所では、子どものころから衛生や科学などに対する理解と関心を深めることを目的として、県内在住の小学生とその保護者を対象に「夏休み親子教室」を開催しています。この教室は年1回開催しており、今回で3回目です。今年度は7月31日に開催し、4組10名の親子にご参加いただきました。

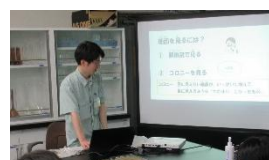
衛生科学センターってどんなところ？

衛生科学センターの所長が講師となり、地方衛生研究所の役割や当所の各係で担当している業務についてお話がありました。



〈体験〉 ばい菌を見てみよう

食中毒の原因となる4種類のばい菌を顕微鏡で観察し、観察した菌を色や形から、フローチャートを用いて、どのばい菌（黄色ブドウ球菌、セレウス菌、大腸菌、カンピロバクター）か特定しました。また、培地に生えた細菌のコロニーも観察しました。



手洗い体験 ちゃんと手が洗えているかな？

参加者は「手洗い科学捜査研究所」の特別研究員となり、イノウエ博士からの手洗いミッション（クイズ）に答えるため、蛍光塗料をつけて手洗いを行い、ブラックライトを用いて洗い残しを確認しました。



なぜ蛇口の水はそのまま飲めるの？ 親子で調べる「水道水と塩素」のふしぎ

5種類の水（水道水、沸騰して冷ました水道水、浄水器の水、ミネラルウォーター、プール水）の塩素が、どの程度はいつているか試薬を使って調べました。



参加者からは「普段できない実験ができ、良い経験になりました」と大変うれしいご感想をいただき、親子で楽しめる内容になっていたのではないかと思います。来年度も引き続き開催予定です。毎年7月ごろから当所のホームページで開催案内を掲載していますので、ぜひご参加ください！

ダニ媒介感染症

ダニ媒介感染症とは

ダニ媒介感染症とは、リケッチアやウイルスといった病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症のことです。ダニ媒介感染症は地球温暖化によるダニ類の分布の変化等によって感染地域が拡大傾向にあります。また、2025年にはダニ媒介感染症の一種である SFTS（重症熱性血小板減少症候群）に感染した獣医師が死亡したこと¹⁾がニュースに取り上げられ注目が高まっています。日本で発生頻度が高いダニ媒介感染症には SFTS の他に、日本紅斑熱、つつが虫病があります。これらの感染症は感染症法の4類感染症に定められています。つつが虫病は年間 300～500 件程度の患者数で推移していますが、SFTS と日本紅斑熱は年々患者数が増加傾向にあります²⁾。（図1）

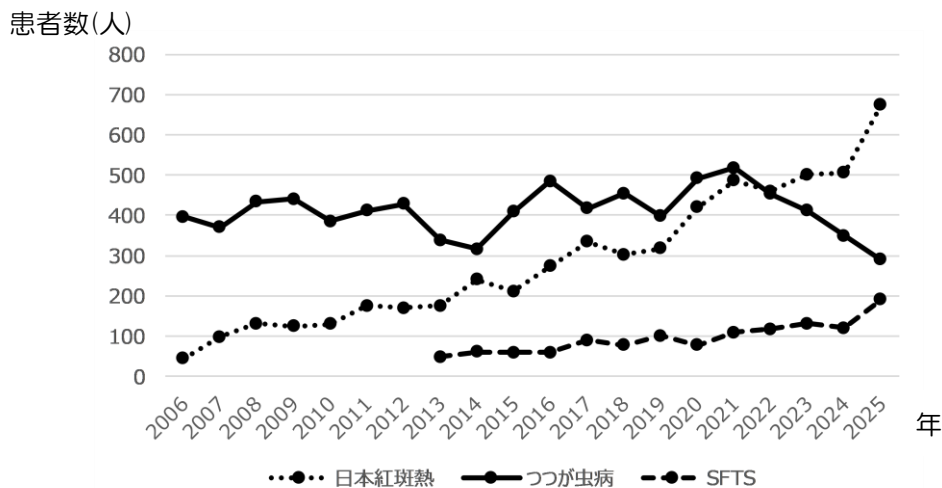


図1 年別患者届け出報告数の推移（国立感染症研究所 IDWR より）

重症熱性血小板減少症候群（SFTS：Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome）

SFTS は SFTS ウイルスに感染することによって起こる疾患です。中国にて 2011 年に初めて報告されて以来、東アジアや東南アジアで患者が確認されています。日本では 2013 年以降、西日本を中心に患者が確認され、近年は年間 100 例以上の報告があり、高齢者に多い傾向にあります。ウイルスを保有するマダニの刺咬、感染動物や患者の血液・体液との接触で感染します。感染してから症状が出るまでの期間は 6～14 日程度で、主な症状は発熱や消化器症状などで、重症例では出血傾向や意識障害を伴い、死亡することがあります³⁾。

日本紅斑熱

日本紅斑熱は紅斑熱群リケッチアの一種である *Rickettsia japonica* を病原体とする感染症で、日本特有の疾患です。病原体を保有するマダニによる刺咬で感染し、発熱、発疹、刺し口が主要3徴候です。ダニの活動が活発化する 4 月から 11 月に患者の発生が多くなります。ダニに刺咬されてから症状が出るまでの期間は 2～8 日程度、発熱、発疹が主な症状で刺し口もほとんどの症例で見られます⁴⁾。

つつが虫病

つつが虫病は病原体である *Orientia tsutsugamushi* を保有する小型のダニ（ツツガムシ）の幼虫の刺咬により媒介される感染症です。媒介する数種類のダニのうち、0.1～3 %が菌をもつ有毒ダニです。関東～九州地方では、ダニが孵化する秋～初冬、東北・北陸地方では越冬した個体が活動を再開する春～初夏に患者の発生が多くなります。ダニに刺されてから症状が出るまでの期間は 5～14 日で、典型的な症例では 39℃以上の高熱を伴って発症し、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみ

られ、その後数日で体幹部を中心に発疹がみられるようになります⁵⁾。適切な治療が行われない場合、死亡することがあります。

ダニ媒介感染症の検査について

当所では医師からの依頼に基づいて保健所が必要と判断した症例について、患者さんの血液や痂皮（ダニの刺し口）から遺伝子検査で病原体の検出をしています。

滋賀県では日本紅斑熱は2025年は2件、2026年は8月1日時点で1件と2年連続で患者が発生しています。つつが虫病は2021年と2022年に1件、2024年に2件、SFTSは2021年に1件のみ発生があります。（表1）患者数は少ないですが滋賀県の野山においても、これら3種の病原体をそれぞれ保有するダニが存在し、誰もが感染する可能性があります。

	2026年※	2025年	2024年	2023年	2022年	2021年
日本紅斑熱	1件	2件	0件	0件	0件	0件
つつが虫病	0件	0件	2件	0件	1件	1件
SFTS	0件	0件	0件	0件	0件	1件

※2026年8月1日現在

表1 滋賀県における近年の報告件数

ダニ媒介感染症に感染しないために

マダニ・ツツガムシはシカやイノシシ、野ウサギなど野生動物が出没する環境に多く生息しています。草むらや藪などに入る場合は、長袖・長ズボン、手袋、長靴、帽子を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。また、ダニ・ツツガムシ用の虫除けスプレーの使用も効果的です。マダニ類の多くは、ヒトや動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いものは10日間以上）吸血しますが、刺されたことに気がつかない場合も多いと言われています。屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認して下さい。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）など皮膚が柔らかく薄い場所がダニの好む場所です。吸血中のマダニに気が付いた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関（皮膚科）でマダニの除去、洗浄などをしてもらってください。また、マダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい^{6) 7)}。

実際のダニと刺し口の写真



《参考文献》

- 1) 国立感染症研究所 病原微生物検出情報 IASR Vol.46, No.8(No.546)
- 2) 国立感染症研究所 IDWR データ
- 3) 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）
- 4) 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト 日本紅斑熱
- 5) 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト つつが虫病（詳細版）
- 6) 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイトマダニ対策、今できること
- 7) 厚生労働省 ダニ媒介感染症
- 8) リケッチア診断の手引き